



## News

当院の最新情報をお届けします

当院の新しい  
指針が決定!

Our Mission / ～開院50年の菊南病院が未来へ続くために～  
『望む場所』で、『望む暮らし』を支援する。

菊南病院 副院長 室原 誉伶

僕達は、新しい病院の理念を掲げました。この理念には、僕達が医療・介護を通して大切にしたい「場所」への想いと、僕達の役割である「支援」のあり方が込められています。

### 1. 「望む場所」

この「望む場所」には、二つの意味を込めています。

一つは、僕達の拠点であるこの「菊南地域」です。50年もの間、この街の発展とともに歩んできた菊南病院は、地域と共に街の成熟期という新たなステージを迎えています。これからは、これまで以上に地域の方々のニーズに深く寄り添い、組織一丸となってその質を高めることで、この地域の方々の暮らしをより盤石に支えられる体制を目指していきます。

もう一つは、日本の「へき地」です。人口減少が進む日本において、医療インフラは都市部へ集中していきます。そのため、故郷で暮らし続けたいと願う方々が、10年後、20年後も安心してその地で暮らせる環境を維持することは容易ではありません。

僕自身、離島での医療経験を通して、医療が届かなくなる場所が人々の暮らしをいかに変えてしまうかを目の当たりにしてきました。300名を超える職員を抱える医療法人として、地域医療というインフラを絶やさないことは、僕達の社会的責務だと考えます。

### 2. 「望む暮らし」: 医療・介護は、願いを叶えるための手段

僕達は、「医療・介護は何のために



あるのか」を常に自問しています。それは、皆様が「どのように生きたいか」という想いを叶えるための手段にすぎません。

ときには「治療のために好きなことを制限する」ことが医学的な正解とされることもあります。しかし、その制限の先に、本人が本当に望む未来がないのであれば、それは真の支援とは呼べないのではないのでしょうか。

一般的な医学的正解を一方向的に押し付けるのではなく、一人ひとりが人生で大切にしている事を尊重しながら医学的知識を元に支援する。僕達は、その当たり前前の姿勢を何よりも大切にします。

### 3. 「支援する」: 主役であるあなたの人生に伴走する

当初、僕達はこの理念を『望む暮

らし』を実現する」と表現しようと考えました。しかし暮らしを実現するのは、僕達ではなく「あなた」です。あくまで主役は、「あなた」です。

僕達ができるのは、あなたの人生があなたらしくあるために、全力で支えること。皆様が自らの望む人生を歩み続けるために、僕達はそのパートナーでありたい。そうした想いから、「実現する」から「支援する」へと言葉を改めました。

まだまだ至らない点もあるかと思いますが、僕達はこの理念を掲げ、実現していきます。

菊南病院は、皆様が「望む場所」で「望む暮らし」を続けるために、これからも全力で伴走し、支え続けてまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

刺激し合い  
成長する  
組織へ！

## 院内各部署発表会

令和8年6月22日、各部署の取り組みや研究を発表する「院内各部署発表会」が開催されました。

それぞれ異なる多職種3名による発表をご紹介します。



レポート 〈講評：猪本 伸子 前看護部長〉

1

### 「服薬簡素化の実践と当院での取り組み」

薬剤科 廣瀬 志帆

#### 1. 服薬簡素化が必要な理由

##### ①服薬管理能力の低下

・認知機能の低下/手指の巧緻性低下/視下機能低下

##### ②多剤併用で服用回数の増加

・入院患者の7割が多剤併用/管理が複雑化

##### ③施設側の負担が増える

・マンパワー不足/看護師の介助負担増加/与薬ミス、事故リスクの増加

#### まとめ

- ・服薬簡素化は患者の安全性向上と現場の業務効率化に直結
- ・投与回数、スケジュールの最適化（服薬タイミングの統一）
- ・必要なタイミングが異なる薬もあるため、個別に検討する必要あり
- ・多職種連携で情報共有



服薬簡素化が必要な理由や意義について検討・実施した。取り組みの症例から、多職種連携の重要性、患者さんの負担軽減、業務効率化の一翼を担うなど多くのプラス面があった。一方、薬剤・患者ごとに個別検討が必要、多職種での情報共有が不可欠など協力し合って今後も取り組みを進めていきたい。

講評

研究として数値化し、まとめられて大変素晴らしい発表でした。今後、取り組みを更に進めていただきたい。薬剤師だけの仕事ではなく、看護師も知識を持って提案できるようにならないといけない。

2

### 「終末期患者におけるACPを意識したかえるプロジェクトの取り組み」

看護部/療養病棟 藤芳 真佐美

#### はじめに

##### アドバンス・ケア・プランニング (advance care planning : ACP)

患者が最期まで自分らしく生きるために価値観や望む医療・ケアについて、家族や医療者と繰り返し話し合い、共有するプロセス

#### 考察

##### 健康

外出の移動そのものが体力を消耗し心身共に危険な状況になる可能性が高かった

##### 安らぎ

住み慣れた自宅

##### 希望

本人：家に帰りたい  
家族：それを叶えたい

##### 安心

支援してくれる医療者がいる

入院が長期化した患者の希望を、家族や医療者がどう支えたか、かえるプロジェクトの症例から報告。本人や家族と向き合い、たとえ短い時間でもご自宅に、と外出支援を行った。課題はあるが、安心と信頼を得られるように接し、支援を提供できたことは医療者にとってもやりがいや誇りにつながると感じる。

講評

忙しい中での実践は大変だったと分かるので褒めたい。ACPという素晴らしい取り組みが看護部で行われたことが嬉しい。今後、発表として「背景・目的→調査→症例→考察→結語」を意識してみるとより良いと思う。

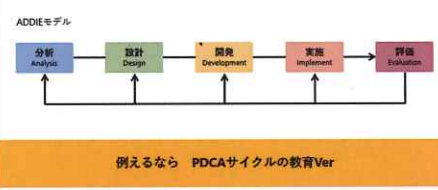
3

### 「医療従事者の主体性を育む参加型学習（ワークショップ）の実践

～不確実性の高い現場で求められる教育デザインとは～

医療安全管理室 大戸 貴史

#### 教育デザイン(10)の導入



#### アンケート結果より



職場の「仲間」から「教育者」となるべく、教育デザインとワークショップを導入した結果、視野が広がり学習意欲も高まるほぼ狙い通りの効果を得たと共に、予想外に学習を「楽しい」と感じてもらう好評価も得られた。伴走者として寄り添い、学びへの主体性を養うことも現場教育に必要なと感じる。

講評

独自の発表で関心を持って聞いた。何より、「学ぶこと」が楽しいということを伝えていく、継続していくことが一番難しいと感じているので、今後とも取り組みを続けていただきたい。



菊南病院 看護部長 岩村 昌代

このたび、看護部長を拝命いたしました、岩村と申します。まず、令和8年熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧・復興と、皆様が安心して日常を取り戻されることを心よりお祈り申し上げます。当院でも発災翌日から3日間、職員のための「院内託児所」を実施しました。多数のお子さんをお預かりし、災害時の子育て支援や、家族支援が必要だと実感しました。

菊南病院に入職してあっという間に20年が過ぎました。これまで看護師として患者様に寄り添い、現場で多くのことを学び、たくさんの方々に支えて頂きました。その経験を大切にしながら、新たな役割を担うことになり、大変身の引き締まる思いです。

色んな経験をした中で私が何より大切にしたいのは、「患者様を第一に考える看護」です。患者様やご家族に安心していただけるよう、一人ひとりの思いに耳を傾け、心の通う看護を実践していきたいと考えています。

また、良い医療・良い看護は、職員が安心して笑顔で働ける環境があってこそ生まれるものです。現場で学んできたことを大切にしながら、安心してそれぞれの専門性を発揮できる職場づくりにも努めてまいります。

菊南病院は、地域の皆様とともに歩み、地域に必要とされる病院であり続けることを目指しています。私も看護部長として、地域の皆様から「困ったときは菊南病院へ」「ここなら安心して任せられる」と信頼していただけるよう、そして患者様にも職員にも「選ばれる病院の実現」を目指し、看護部一丸となって歩んでまいります。

私の性格は明るく、良く笑います。お話を聞くことが大好きですので、いつでもお声をかけてください。趣味は絵を描くことや、走ること、映画鑑賞など色々あります。ハマっているものは「鬼滅の刃」です。炭治郎の「人のためにすることは、巡り巡って自分のためにもなる。そうやって人は助け合っていくものだ」のセリフに深く共感し、ところどころで使わせて頂いております。

まだまだ学ぶことも多くありますが、感謝の気持ちと謙虚な姿勢を忘れず、一步、一步前へ進んでまいります。

今後とも、ご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



地域のみなさまとの交流のようすをお届けします

## フードバンクママトコ

### 「こども食支援応援プロジェクト」

一般社団法人フードバンクママトコさまが実施されたプロジェクトに、食品の寄贈を行いました。合志にある「フードバンクママトコ」は、食品物流を主な事業としてきた株式会社共同が設立した非営利組織です。今まで築いてきた物流ネットワーク、食品倉庫を利用することで、食品ロス削減に取り組む企業の支援を行うとともに、経済的な理由で食事が保証されない子どもたちやその家族を支援する団体、子ども食堂、社会福祉法人、経済的な困窮者を支援する団体へ食品提供を行ってられます。集めた食品は県内の支援団体を通じて、各市町村社会福祉協議会、児童支援団体、ひとり親家庭、こども食堂などに配布されます。この度、長期休みを前にした集中集配のご案内をいただき、職員に呼びかけを行いました。

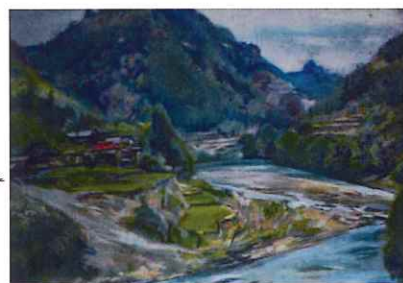
たくさんの食品を寄付していただき、2026年7月9日に無事お渡しすることができました。早速必要な所へお届けしますと大変感謝いただきました。これからご縁を大切に、出来ることから協力していきたいと思います。



## ぱんぷきん食堂に牛肉を寄付しました



「NPO法人ぱんぷきん」さまが開催している地域の子ども食堂「ぱんぷきん食堂」へ、食品の寄贈を行いました。熊本市北区北部東校区にて月1回開催されているぱんぷきん食堂は、子どもが1人でも安心して来れる地域の子ども食堂です。当法人より、室原良治理事長が牛肉を寄付し、今回はおいしい牛丼がふるまわれました。



子どものころの志屋の風景  
水没前の生家を望む  
恩師宮川泰孝先生作 バステル

## 第1回 「生い立ちと医師への道」

2024年に101歳で生涯を終えた当法人の創立者である室原亥十二先生は有形無形の多くを我々に残してくれた。34歳でゼロから医院を開業、法人を拡大し地域医療に貢献したこと以外に、病める人への誠意ある診療を100歳まで続けたその姿は患者、職員の意識の中で受け継がれ現在の医療法人の理念の基礎を形作っている。

私は息子、上司、共同経営者という立場で近くで長年接してきた。亥十二先生は自分の過去を振り返って後悔するより、希望ある将来を見据えていた。それは法人50周年の記念誌の冒頭の文章「自分史には将来はない、記念誌には希望がある」のことがばに表れている。

亥十二先生が考えた〈希望〉をこの機会に深堀して、シリーズで記録していきたい。初回は、生い立ちと医師になったいきさつである。

生まれは熊本と大分の県境にある山の中、小国町大字黒淵字志屋という地域で、筑後川の上流に位置する。

室原家は代々山林と田畑で生計を立ててきた。特に日田杉は高級銘木の産地でもあった。大正12年の亥の年生まれで亥十二と名付けられた。父親には幼いころから山林業の手ほどきを受けたが親戚には医療関係者はいない。この地にダム建設の計画が始まったのは昭和30年代だが、その住民反対運動を率いたのが7人兄弟の長兄で24歳上の室原知之（ともゆき）である。知之はこの日田舎から早稲田大学政経学部に進んでおり、亥十二先生はこの兄の影響で生まれ育った山峡以外の世界の存在を、意識のどこかに持っていたのではないかとと思われる。旧制中学日田中学に通ったので郷里を離れて下宿している。そこで成績が良かったのであろう、4年生の時に第五高等学校を受験することを決めて翌年入学した。パンカラ、剛毅朴訥の第五高等学校時代は想像するに人生最高の時間であったと思われる。当時の学友とはその後長年に渡り同窓会などで付き合いが

あり、ポート部は最も情熱を注いだスポーツであった。しかし、太平洋戦争の影響で、その後入学した東大工学部時代は、バラ色の学生生活ではなかったであろう。そして終戦、世の中は混乱しており仕事もなかったために、郷里へ戻って、山林の手伝い、時には数学と英語のバイトで教師をした。その後熊大医学部へ入学することになるのであるが、自分史によるとそのいきさつについては〈その後、医者になることを思い立った〉という記述しかない。詳細は不明である。亥十二先生は、周囲にも医者になった経緯については語っていない。私の推察であるが、同じ小国出身の世界的医学者である北里柴三郎がすでに名声を博していたので、亥十二先生の意識のどこかにその存在があったのではないだろうか？当然だが、亥十二先生が医師になったことはその後の子孫の職業選択にも影響を与えている。



好評連載

ドクター古庄



サイクリング紀行

菊南病院 副院長 古庄 伸行

## 第66回 ペリリュー島守備隊長の墓

太平洋戦争末期の1944年9月から11月にかけて、パラオ諸島のペリリュー島で日本軍と米軍の間で激烈な陸上戦があったことをご存じない方も多いかと思います。米軍は、フィリピン奪還の拠点確保を目的に約4万8千の兵力でペリリュー島に侵攻しました。中川州男（くにお）大佐率いる約1万人の日本軍守備隊は徹底した抗戦を展開しました。日本軍は無謀な「突撃戦」を避け、島内の複雑な洞窟を利用した持久戦を選択しました。当初、米軍は「数日で攻略できる」と踏んでいましたが、日本軍は約70日間にわたる徹底抗戦で米軍に大きな損害を与え続けました。最終的に11月24日、守備隊本部の自決で組織的戦闘は終結しましたが、敗残兵たちは洞窟に

こもり、ヘビやカエルを食べて飢えをしのぎながら終戦後も抵抗と潜伏生活を続け、1947年4月22日に残存していた34人が米軍の説得や状況を受け入れて正式に投降しました。この顛末は、ネットフリックスのアニメ映画「ペリリュー 南海のゲルニカ」でも観ることができます。

熊本市中央区保田窪の自宅から自転車で行き、竜神橋を渡って熊大キャンパスの北側の立田山の中腹にある貯水池に上り、西側へ廻って階段を少し下ると案内板があり、墓地を北へ少し進んで行くと、蟬しぐれの中、ペリリュー島守備隊を指揮した中川州男大佐の墓が静かに立っています。

中川大佐は玉名の出身で、終戦時



には熊本市内に自宅がありました。妻の光枝夫人は昭和28年に立田山の西斜面の墓地に墓標を建て、遺骨の戻ることのなかった夫の菩提を弔い、平成14年9月18日に98歳の生涯を閉じ、南の島で散った夫と共に眠っているのです。



## 2026 夏 / 施設の楽しい行事を紹介します

●水前寺高齢者複合施設 ●グループホーム 鈴の音 ●水前寺有料老人ホーム



七夕飾りも利用者様と職員で一緒に作り、各階笹に飾りつけをしました。たくさんの願い事が笹に揺れていました。皆様の願い事が天まで届きますよう、職員一同願っております。



七夕メニュー



願いごとが  
叶いますように



- ・いなり寿司
- ・七夕そうめん
- ・星のミートコロッケ
- ・フルーツ

壁絵  
作品



グループホーム ぎくなん



荒尾までバラ  
見学へ



母の日：  
手作りバラ  
プレゼント



お好み焼き作り  
ボリューム満点



おやつ作り：  
羊羹作りました



初夏の行事食 お品書



母の日 (2026.5.10)

散らし寿司・煮しめ・すまし汁  
キャラメルケーキ



父の日 (2026.6.21)

ミートドリア・ブロッコリーサラダ  
コンソメスープ・紫陽花ゼリー



七夕 (2026.7.7)

いなり寿司・七夕素麺  
星のミートコロッケ・お星さまゼリー

